

一 般 健 康 診 断

受診者数の推移

平成22年度の一般健康診断等の受診団体数は、平成21年度と比較してやや減少、それに伴い受診者数は約2万件減少した。全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診は、平成20年度に引き続き受診団体数、受診者数ともにやや増加した。各検査項目（法定項目）は、平成15年以降、全項目、省略項目ともに増加傾向が続いていたが、平成22年度は両項目とも減少した。総合健診をもって定期健康診断とする件数も前年度に比べやや減少した。

有所見率の推移

胸部X線：平成16年以降、「異常なし」の比率は女性のすべての年代で減少傾向が続いていたが、60歳代以上を除いて横ばいか微増となった。男性の若年者（40～49歳）では平成19年度でやや増加したが、平成20年度以降は全年代で横ばいである。「年1回定期観察」の比率は、平成20年度まで男女すべての年代で増加傾向が続き、平成21年度はほぼ全年代で減少したが、平成22年度は横ばいとなった。一方、「要精密検査」の比率は男女すべての年代で減少した。

血圧：収縮期血圧、拡張期血圧の平均値は男女とも全年代で平成19年以降低下していたが、平成22年度は男女とも前年代でやや増加した。「正常範囲」の比率については男女全年代で減少傾向が横ばいであった。収縮期血圧90～99または拡張期血圧140～159の「要経過観察」の比率は男女とも40代以上で増加傾向である。収縮期血圧100～または拡張期血圧160～の「要注意」「要受診」の比率は男女とも、平成20年度以降全年代で減少していたが、平成22年度は男女とも40代以上でやや増加に転じた。

BMI、腹囲：平成20年度から導入された腹囲計測は平成20年度、男性85cm以上は37.8%、平成21年度36.7%とやや減少したが、平成22年度は36.5%とほぼ横ばいであった。女性は平成20年度、90cm以上は9.2%、平成21年度9.0%と微減したが平成22年度は8.9%とほぼ横ばいであった。男性で85cm以上が最も多かったのは50歳代だが44.6%と平成20年度46.3%、平成21年度45.1%と比較して減少してきている、女性で90cm以上が最も多かったのは60歳代で15.1%と平成20年度11.6%、平成21年度14.9%と比較して増加している。

貧血検査：「異常なし」の比率は平成21年度と比較し男性は50歳代以上を除いて減少傾向、女性は微増か横ばいとなった。「要二次検査」の比率は男女とも平成16年以降増加傾向で、平成21年度で男女ともほぼすべての年代で減少したが、平成22年度は男性49歳以下、女性39歳以下で微増となった。「要受診」の比率は平成21年度、男性全年代で増加傾向であったが、平成22年度は50歳代以上で減少した。女性は50歳代を除き減少した。「要経過観察」の比率は平成17年以降、男性は横ばいで、平成21年度増加、平成22年度も引き続き増加した。女性は平成20

年度まで減少傾向、平成21年度は全年代で増加に転じたが50歳代を除き減少した。

肝機能：「異常なし」の比率は平成15年以降、平成21年度まで男女の全年代で増加傾向、平成21年度は減少に転じ、平成22年度も引き続き減少か横ばいとなった。逆に「要経過観察」の比率は平成17年以降平成21年度まで減少傾向、平成21年度は男女とも増加に転じ、平成22年度も引き続き増加か横ばいであった。「要二次検査」の比率は平成15年以降、男性の全年代で減少傾向であったが、平成22年度は30～39歳代を除き、ほぼ横ばいであった。女性は横ばいが続いていたが、平成22年度は～29歳代を除き増加に転じた。「要受診」の比率は男性で60歳以上を除き減少、女性は40～59歳代で減少、～29歳代と60歳～で増加した。

脂質検査：「異常なし」の比率は、男女とも平成22年度はほぼ横ばいであった。「要経過観察」の比率は平成20年度、男性の20歳代を除き男女ともすべての年代で減少、平成21年度は男女とも増加に転じ、平成22年度はほぼ横ばいであった。「要二次検査」の比率は男女ともすべての年代で減少か横ばいであった。「要受診」は平成20年度、女性の20歳代を除き、すべての年代で増加、平成21年度は男女とも全年代で減少し、平成22年度も女性60歳以上を除き減少か横ばいであった。

聴力検査：「所見なし」の比率は平成17年以降、男性の40歳以上、女性50歳以上でやや増加傾向が続いている。「所見あり」の比率は男女とも50代以上で減少傾向が続いている。「4kHzのみ所見あり」「1.4kHzとも所見あり」の比率は「所見あり」の比率とほぼ同様に推移しているが「1kHzのみ所見あり」では男女とも60歳代以上でやや増加した。

心電図検査：「異常なし」の比率は男女ともほぼ横ばいであった。「ほぼ正常」の比率は男性は30～39歳代を除き減少傾向、女性はほぼ横ばいであった。「要経過観察」の比率は男性～29歳代と60歳～で増加傾向、女性は30～39歳代と60歳～を除き増加傾向であった。「要受診」の比率は男性は全年代でほぼ横ばい、女性は50歳以上で増加したがそれ以外の年代は横ばいであった。

糖：「異常なし」の比率は男性は～29歳代でやや減少、50～59歳代でやや増加、それ以外は横ばいであった。女性は全年代ほぼ横ばいであった。「ほぼ正常」の比率は、男性は30～39歳代を除き減少、女性は全年代でほぼ横ばいであった。「要経過観察」の比率は男性は～29歳代と60歳以上で増加、～29歳代と50～59歳代で増加した。「要二次検査」の比率は男性は30～49歳を除き増加、女性は60歳以上で増加したがそれ以外は横ばいであった。「要受診」の比率は全年代でほぼ横ばい、女性60代で増加したがそれ以外の年代はほぼ横ばいであった。

関係の集計表は115頁に掲載